

平成 30 年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	日本共産党	支出伝票No.	
事業名	地域包括支援センターの機能について		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

大津市では包括支援センターと保健センターが併設されており、「妊娠期から高齢期」まで世代を問わず、地域の全ての人を対象とした機関となっている点を視察した。

- ・どの様な経過で出来たのか
- ・併設されているメリットなど

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成 30 年 8 月 8 日 (水) 13時30分～16時	滋賀県大津市市役所 議会事務局：永阪 哲 局長 健康保険部：栗本 亮 長寿政策課主査 健康保険部：白子 知美 主査 健康推進課：白子 京弥 課長補佐

報告内容・実施したこと

1 視察先（市町村等）の概要

- ・滋賀県大津市（琵琶湖の南） 東西最長20.6km 南北最長45.6kmと琵琶湖沿いに南北に細長い地域
- ・人口：342,088人 ・世帯数：146,696世帯 ・面積：464.51km²
- ・大津は、667年天智天皇が近江大津宮に都を移して以来、琵琶湖を支配する要所として栄えてきました。また、東海道の53番目の宿場町としても知られている。
- ・幾度もの合併を経たなか、平成18年、平成の大合併の流れで志賀町と合併。新大津市がスタートした。平成17年から人口30万人を突破。平成21年4月に中核市へ移行。より市民に身近なところで、市民サービスが提供できるようになる。

2 視察内容

- ・大津市では南北に長い地域を7の地域に分け、包括支援センター（あんしん長寿相談所）と保健センター（すこやか相談所）を併設して設置されており、「妊娠期から高齢期」まで世代を問わず、地域の全ての人を対象とした、誰もが相談できる機関となっている。
- ・当市は別々の機関であり、併設のメリットなど視察した。

《あんしん長寿相談所とすこやか相談所を併設した理由》

- ① すこやか相談所の設置目的である、地域全体を視野に入れた健康で生き生き暮らせる街作りに合致する。
- ② すこやか相談所の併設により介護予防の地域作りを進めることが出来る。
- ③ 介護予防の拠点として生活習慣病から介護予防まで、連続性・一貫性のあるシステムの構築
- ④ 保健と福祉の一元化。家族単位の関わりでの連携がスムーズに出来る。
(例：精神障がいのあるお子さんがいる高齢者、育児と介護を担うWケア)
- ⑤ 同じ場所で死人のライフサイクルを通し保健・福祉活動の支援を継続することが出来る。
とのことでした。

	<p>《あんしん長寿相談所の職員配置 7箇所》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長：1（保健師） ・相談専任：1（保健師） ・社会福祉士：1～3（職託） ・主任介護支援専門員：2～3（ケアマネ） ・介護支援専門員：3～4（市職託） <p>《すこやか相談所職員7カ所全体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長：7人 ・保健師他：25人 ・ヘルスアドバイザー（臨時保健師）8人 ・助産師3人
<p>感想 まとめ ・市に活かせること等</p>	<p>《まとめ・感想》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期・育児から高齢期介護までの「ダブルケア」が社会問題化している中で、専門職が常駐しワンストップで切れ目無く相談できる仕組みが整備されている。 ・この様な包括的な体制を整備することにより、こども、障がい、高齢など分け隔て無く対応が可能となる。特定の分野にとらわれることの無い、社会資源となっていくことが可能である。 ・当市も、できれば併設を目指していただきたいが、課内の連携を強化し切れ目のないワンストップ支援が出来ればと考える。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・会派として調査継続中。
--